

特集

# インフラの魅力が 伝わる広報へ ～地域の成功例に学ぶ～

## 【特集の趣旨】

わが国において、インフラ整備は国民の生活や経済活動にきわめて重要な役割を果たしてきていますが、そのことが十分に認識されているとは言えず、インフラ整備を負のイメージとしてとらえる状況が続いています。

そうした中、関係機関等においては、インフラ整備の必要性を一般の人に自らの目でみて、その役割に気づいてもらうように「伝わる」広報活動等が展開されてきました。各地域では、住民の理解を得ることや地域の担い手を確保すること等に向けて、行政や民間団体で様々な手法で広報の取組みが行われてきました。

昨今ではメディアを使ったPR、フェイスブックなどのSNSを活用した広報活動等、様々なツールがある状況のもとで、狙いに応じてどのようにして効果的な広報活動を行うべきか、多くの全建会員にとって悩みのひとつとなっています。

今号の特集では、関係機関のインフラの魅力が伝わる取組みを紹介するとともに、地方整備局、地方公共団体で取り組んでいる広報活動として、工事現場の見せ方を工夫した事例、災害対応を通じた広報の事例等を紹介します。

特集担当編集委員  
(国土交通省 大臣官房 技術調査課 技術企画官)

野坂 周子



ダムスペースを使ったスラックライン（本号P23～25  
「地域と連携したインフラツーリズム」より）



## CONTENTS

登場する勇気がイノベーションを加速する	8
災害対応時におけるSNSの活用	11
来て、見て、触って、建設現場の「今」を伝える	14
“住民目線・双方向”で行う公共事業での戦略的広報	17
「こうほう課」による部局横断的な広報活動	20
地域と連携したインフラツーリズム	23
下水道をYouTuber風に紹介してみた (in高槻)	26
「東京湾第二海堡」 <sup>かいほう</sup> インフラツーリズムの取り組み	29